

2021年度からの3カ年計画である「環境計画2023」では、2023年度の全温室効果ガスの年間排出量の目標を、SBT認証上の目標値に準拠し、2016年度(基準年)比で9%削減となる120万トン以下とするとともに、売上高原単位を2019年度(基準年)比で6%以上削減することとしています。さらに生産時に使用する電力量の2%(約2万MWh/年)をCO₂フリーの再生可能エネルギー由来とする目標も掲げています。

また、「環境ビジョン2050」やSBT目標を確実に達成するために、建築物及び生産設備向けの「省エネガイドライン」を発行しました。

●建築物省エネガイドライン

主に新工場建設における建屋断熱性能や、一定の再生可能エネルギー導入の検討を求める内容

●生産設備省エネガイドライン

一般的な省エネ技術を網羅的に示し、特に当社製品(高効率電気機器、省エネ監視制御機器、LED照明、ヒートポンプ、インバータ、回生電力コンバータなど)の積極的な活用検討を求める内容

今後も事業を通じ、徹底した省エネ活動を推進していきます。

資源投入量の削減

目標と成果

三菱電機グループでは、製品の小型化・軽量化による資源投入量の削減を進めています。第9次環境計画(2018~2020年度)では、「2000年度比で、64製品群の平均削減率40%」を目標とし、製品開発計画に削減目標を織り込んで推進してきました。継続的に生産することのない個産品や、お客様の指定仕様で製造する製品については「資源投入量削減」の対象外としています。

資源投入量の平均削減率は、2020年度は43%となり、目標を達成しました。

三菱電機では、「環境計画2023」から、製品の小型化・軽量化に加え、再生プラスチックの導入を推進し、資源投入量の削減を進めていきます。2023年度までの目標として、購入する樹脂材のうち、再生プラスチックの比率を10%まで高めます。特に、三菱電機グループが保有するプラスチックの再生技術を積極的に活用していきます。

2020年度に顕著に削減が進んだ製品(いずれも、2019年度比)

- TFT液晶モジュール:12%削減
- 給湯システム機器:6%削減
- IHクッキングヒーター:6%削減
- ガス絶縁開閉:5%削減

2000年度を基準とした64製品群の資源投入量平均削減率(三菱電機グループ)

